第一章　小学校時代

私が生まれたのは、１９５０年（昭和二十五年）五月十六日、筑紫郡比左村でした。当時はまだ比左村でしたが、１９５４年四月一日より近隣一村と共に福岡市に編入されて福岡市南区となりました。父・不二雄は、その頃地元で唯一大手の建設会社で専務として勤めていました。と言っても田舎のものなので、今と比べるべくもない規模だったと思います。我が家はその会社裏手、玉泉寺の参道からあぜ道をすこし入った場所にあり、その会社が所有している貸家でした。

バラック小屋ではなかったですが雨漏りがひどく、雨の日は鍋やヤカンをあちこちに並べたものです。また、衛生面も良くない時代で、玄関先の井戸の側で身体についたダニ・ノミ・シラミを退治するために、母に頭からＤＤＴをかけられたりしました。たまに古い映画でＤＤＴを散布するシーンを見ると、自分の頭髪がまだらに白くなった光景がよみがえります。畳の縁に潜むシラミや飛び跳ねるノミを捕まえ、両手の親指の爪でパチンとつぶしたことは今でも覚えています。

父が勤務していた会社には跡継ぎの息子さんがいたので、私が五歳の頃暖簾分けのかたちで独立し、自身の建設会社「青木組」を設立しました。会社から退職金代わりに住宅一軒分の材木をもらい、それをもって実家を建てたそうです。基礎下に松の木杭を「エンヤッショ！エンヤッショ！」の掛け声で力強く打ち込む人夫のおじさん、おばさんの姿を幼い時分でしたが、非常に印象的に覚えています。新居